

はじめに

群馬大学男女共同参画推進室副室長

広報・ネットワーキングWGリーダー

医学部附属病院 永井 弥生

2013年、科学技術人材育成費補助事業の女性研究者研究支援事業に群馬大学「まゆだまプラン」(平成25年度～27年度)が選定されました。本プランの展開にあたっては、活動の中心となる男女共同参画推進委員会、男女共同参画推進室を設置、荒牧キャンパスを拠点とし、3キャンパスの連携を図りながら全学的な活動を進めていく予定としています。すでに学内では様々な事業が動き出しました。ニュースレター「まゆだま通信」の発行、ホームページの公開、2014年1月17日には女性研究者によるランチミーティング、そして3月10日には本事業のキックオフシンポジウムを開催し、多くの方に参加いただきました。

「まゆだまプラン」は「サポート体制と環境の整備」、次世代と地域に繋がる「意識啓発と情報発信」を二本柱としています。実際の活動にあたっては、「支援体制・環境整備ワーキンググループ(WG)」、「広報・ネットワーキングWG」、「意識啓発WG」の3つのWGを軸として稼働を開始しています。本事業の模索を始めた2012年にもライフイベントへの方策などを探るためのアンケートを行いました。今回は事業の開始にあたって、群馬大学の教職員、学生の現在の意識や具体的なニーズを探るとともに、今後得られる成果を測ることも考え、内容を修正して行いました。大変多くの方に回答をいただき深く御礼申し上げます。

群馬県は、生糸や絹織物の生産地としてよく知られ、その地域社会を支える元気で有能な女性を象徴する“かかあ天下”で有名です。しかしながら、群馬大学における女性研究者は目指すべきとされる比率に比べ低く、その力が存分には発揮されていないことがうかがわれます。女性が安心して仕事を継続、活躍できる組織を構築し、地域ネットワークを拡充することにより裾野の拡大と地位向上を目指す、そのために具体的サポートを提案し実施していく、さらに次世代の人材を育む組織文化を拡充していく、このような社会としても望まれる方針の実現をめざして、一歩ずつの歩みを進めてまいります。

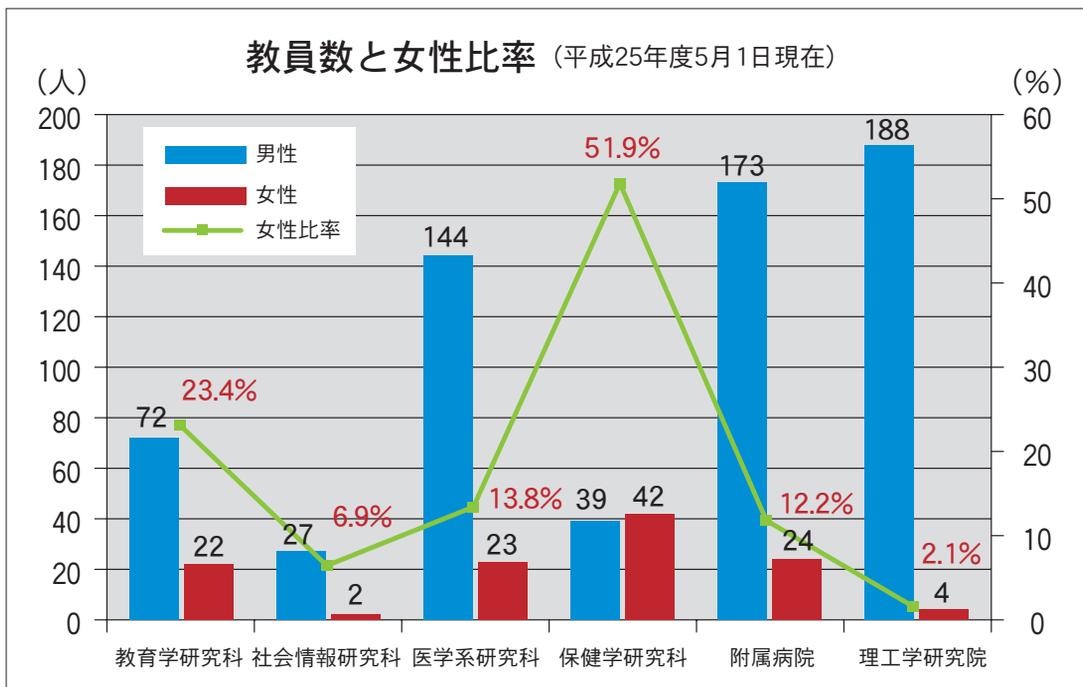
男女共同参画事業は、女性だけを支援するものではありません。女性も男性も、すべての教職員がワークライフバランスを考え、教育や研究の発展、さらなる貢献を目指すためのものです。このアンケートで得られたご意見や皆様の期待に応えられるよう、活動を広げていきたいと思っております。

群馬大学の現状

1. 教員数における女性比率

群馬大学教員における女性比率は、保健学系が51.9%（42名）と突出しているほかは、社会学系2名（6.9%）、理工学系4名（2.1%）、医学系研究科23名（13.8%）、附属病院24名（12.2%）、教育学系22名（23.4%）という現状です（図1）。群馬大学における女性研究者の割合は全体で15.4%（平成25年度）であり、国立大学協会がめざす目標値20%を大きく下回っています。

図1



2. 学生における女性比率

これに対して群馬大学の学生比率をみると、大学院生については、社会学系 57.1%、理工学系 12.9%、医学系 29.6%、保健学系 58.9%、教育学系 57.1% (図 2)、学部学生については、社会学系 53.5%、理工学系 19.0%、医学系 37.3%、保健学系 80.5%、教育学系 52.7%という現状です (図 3)。

教員、大学院生、学部学生の比較を比較すると (図 4)、ほとどの部局においても学部学生→大学院生→教員の順に女性比率が低下しています。

理工学府・工学研究科では女性教員比率が 2.1% と非常に低い現状ですが、学部学生における比率は 19% であり、ここ数年増加傾向にあります。

3. 現状を踏まえて

群馬大学では女性研究者の割合は平成 24 年度が 14.7%、平成 25 年度は 15.4% と微増しているのみですが、前述のように国立大学協会がめざす目標値は 20% とされています。まずは、「まゆだまプラン」の取り組み終了時における目標を 16.1% と設定しました。

「まゆだまプラン」で達成すべきことは単なる数値目標ではありませんが、現在の状況はしっかり把握しておく必要があります。「まゆだまプラン」の実施により大学全体の意識改革が図られ、女性研究者及びその候補者である女子学生の持つ能力が有効に活用されることによって、女性の活躍の場及び女性研究者の雇用の拡大が期待されます。そしてそれは、すべての教職員、学生にとって有益なものでなければなりません。

数値目標は 1 つの目安ではありますが、こうした活動の結果、達成されるべき 1 つの指標でもあります。現状を踏まえ、アンケート調査結果からみえるニーズに応える活動を広げる必要があります。

図 2

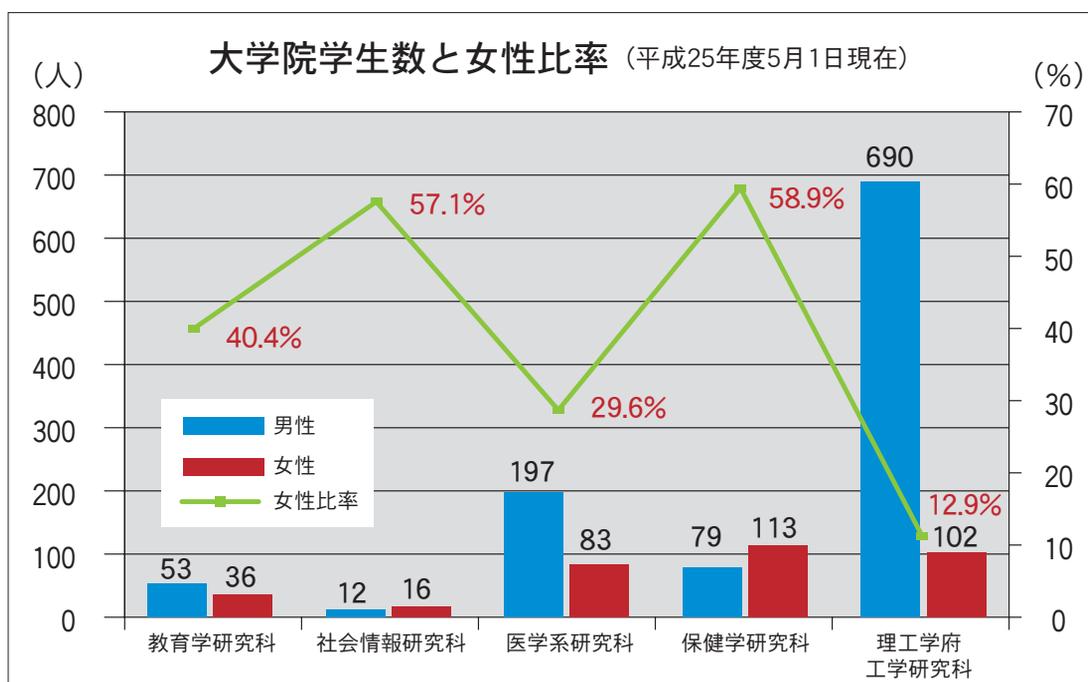


図 3

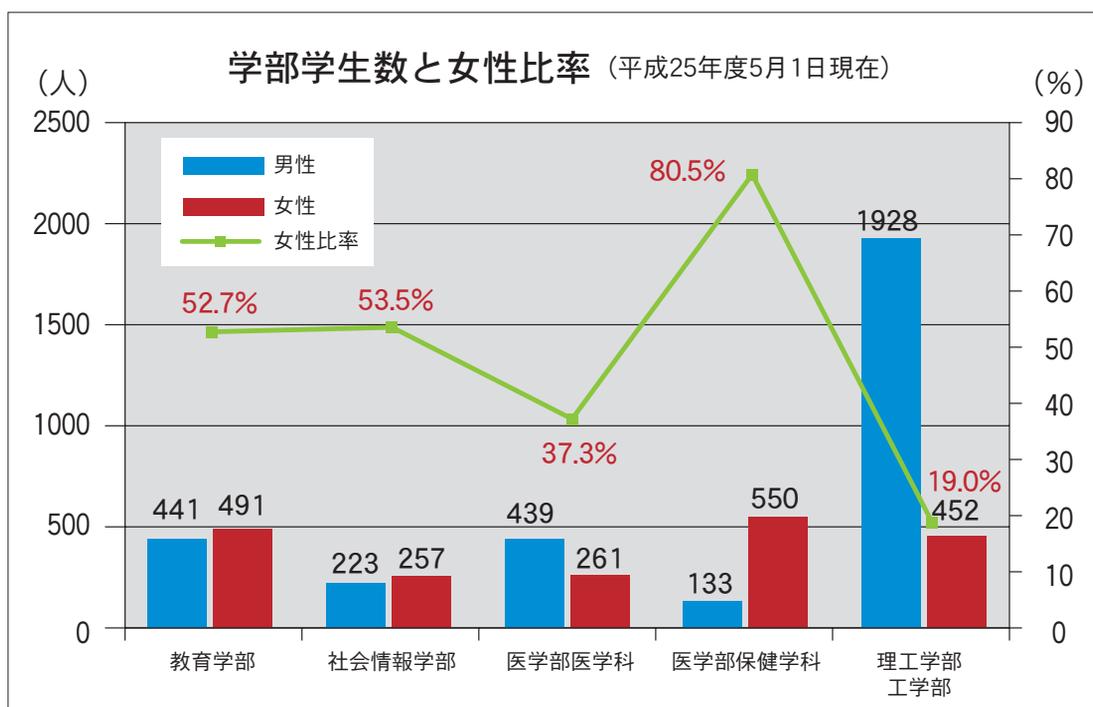


図 4

群馬大学における部局別の教員・学生における女性比率

	教員 (%)	大学院生 (%)	学部学生 (%)
教育学研究科	23.4	40.4	52.7
社会情報研究科	6.9	57.1	53.5
医学系研究科	14.8	29.6	37.3
保健学研究科	51.9	58.9	80.5
理工学府・工学研究科	2.1	12.9	19.0

アンケート調査の概要

■調査目的

群馬大学では、教職員が出産・育児・介護などのライフイベントと仕事を両立するための職場環境の改善、それに向けた学内の意識改革・情報発信を目的に、平成25年8月1日に男女共同参画推進室を設置しました。

子育てや介護の問題は、女性のみならず男性の参画をも視野に入れたサポート体制を整え、職場環境の改善を考えていく必要があります。今回のアンケートでは、下記に示す本学教職員および大学院生を対象として調査し、群馬大学における男女共同参画の推進、職場環境の改善に必要なニーズを探ることを目的としています。

■調査実施体制

アンケート調査の企画立案、調査方法の検討は男女共同参画推進室広報・ネットワーキングWGが行いました。また、調査結果の分析については同WGリーダーの永井弥生（医学系研究科准教授）が行いました。そして、アンケート調査結果のデータ入力、データ集計は（株）上武印刷に委託しました。

■調査方法

アンケート調査用紙の配布は、荒牧・昭和・桐生キャンパスの各部局に依頼し、学内便にて対象者に送付しました。また、アンケート調査用紙の回収については、アンケート調査用紙を返信用封筒に入れ、男女共同参画推進室宛に返送していただきました。

■調査対象者

総調査対象者：2,578名

<調査対象者内訳>

1. 本学教職員のうち下記に掲げる者
教授・准教授・講師・助教・助手・医員（シニアレジデントを含む）・
臨床研修医・研究員（非常勤）
2. 本学大学院生

■調査期間

平成26年1月6日～17日

■調査項目

- ・性別、年齢、職名、所属等、対象者について
- ・男女共同参画推進室について
- ・育児について
- ・介護について
- ・職場環境について
- ・教職員交流スペース「まゆだま広場」について
- ・その他、男女共同参画推進室の活動へ期待すること等、ご意見等（自由記載）

■回収数

1,379件（回収率53.5%）

■個人情報について

皆様からいただいた情報は、この調書のみで使用し、個人情報の管理には細心の注意を持って取扱いしております。

■その他

本アンケート調査結果における割合（％）は、全て小数点以下第2位を四捨五入しているため、以下の各表における割合（％）の合計は、100％にならないことがあります。

自由記載欄にご記入頂いた内容は、原則として原文のまま掲載しております。